鳥取大学

産学・地域連携推進たより

- 研究推進に関する事業報告
- 地域貢献・生涯学習に関する事業報告
- 知的財産管理運用に関する事業
- お知らせ

2016
春号

①研究推進に関する事業報告

1.化粧品開発展 2016　【1 月 20 日（水）-22 日（金）　開催：東京ビックサイト】

本展示会の昨年度に続き、2 回目のブース出展となり、マリンナノファイバー（工学研究科伊福伸介准教授のシーズ）の化粧品添加剤原料としてのスキンケア効果に重点をおいた説明を行いました。ブース以外にも原料セミナーでの講演（20 日）、プレゼンテーション（22 日）に、多くの方にご参加いただきました。前日にワールドビジネスサテライト（テレビ東京）でマリンナノファイバーの放映があったことから関心が高く、3 日間でチラシ約 500 枚を配布しました（展示会来場者 23,295 人）。マリンナノファイバーの認知度をかなりアップさせることが出来ましたので、今後の化粧品業界での採用に期待できそうな手ごたえを感じました。

2.鳥取県産学マッチングセミナー@ダイキン工業 TIC

【3 月 16 日（水）　開催：ダイキン工業㈱テクノロジー・イノベーションセンター】

ダイキン工業㈱淀川製作所内に新設されたテクノロジー・イノベーションセンターで「鳥取県産学マッチングセミナー@ダイキン工業 TIC」が開催されました。同セミナーは鳥取県が主催、ダイキン工業㈱協力のもと開催され、43 企業・団体が出展、50 名を超える来場者がありました。本学産学・地域連携推進機構からは企業との共同研究により商品化された成果物の展示と以下 3 件の研究シーズをパネル展示しました。

1. カニ殻を用いたキチンナノファイバーの製造技術
2. 筋活動電位に基づく筋疲労予測とリハビリテーションへの応用
3. 呼気診断用コンパクト・高感度ガス濃縮器の開発

何れのシーズも研究者の注目を集め、研究者と活発な質疑、議論を行いました。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1.とっとりネットワークシステム（TNS）研究会及び交流会

【1 月 20 日（水）：鳥取大学広報センタースペース C】

とっとりネットワークシステムは産官学連携に積極的にかかわる人の交流を活発化し、そこから鳥取地域の発展に寄与する数多くの新たな活動が生み出されることを期待して設立されました。

今年度、14 の登録研究会に新しく 2 研究会が加わり、今後のさらなる研究会の発展と連携を目的に研究発表会を開催しました。当日は「放置財研究会」、「自伐型林業研究会」、「食品開発と健康に関する研究会」、「鳥取県衛生研究所」、「山陰海岸ジオパークに関する環境学術研究会」、「鳥取県新エネルギー活用研究会」から研究発表があり、TNS 登録研究会会員、本学研究者、自治体職員、地域住民等 40 人が参加しました。

2.平成 27 年度第 6 回鳥取大学産学・地域連携推進西部連絡会及び懇親会

【1 月 21 日（木）：鳥取大学医学部アレスコ棟第 2 会議室ほか】

推進室西部連絡会を米子地区で開催し、19 人が参加しました。この会は本学の県西部地区での産官学連携を密にし、地域の産業界や自治体のニーズと大学の研究・教育資源のマッチングを増やし、産業界や自治体の活性化へのお役立ちを目指しています。

今回は、11 機関に活動状況やイベント案内などを報告いただき、本学はシンポジウムや記念講演会、サイエンス・アカデミー等を紹介しました。また企業からの話題提供では、大山ハム（株）様に「大山ハムのご紹介・企業の視点」と題し、企業概要やハム・ソーセージ類のことや産官学連携への期待などをご講演いただき、全員でハムを試食しながら活発な質疑応答を行いました。

連絡会後の懇親会でも多くの意見交換を通じ、更に連携を深めました。

3.因幡・冬の手づくりまつり

【1 月 24 日（日）：鳥取市こども科学館、2 月 14 日（日）：米子市児童文化センター、3 月 6 日（日）：倉吉市上井公民館】

県内 3 つのものづくり道場では、子どもたちを対象に「冬の手づくりまつり・教室」を開催しました。

東部：「LED リング（電子工作）」、「望遠鏡」、「釘でナイフ」等の 6 ブース（71 人）、中部：「ペットボトルロボット」「光の箱」等 4 ブース（53 人）、西部：「電子オルゴール」「3D ミラーアート」等 4 ブース（44 人）を出展し、3 会場全体で 168 人がものづくりを楽しみました。平成 28 年度も開催予定です。

4.第10回中部地区産学金官連携推進連絡会議　【1月26日（火）:（有）石見会館】

第10回琴浦町産学金官連携情報交換会が開催され、琴浦町をはじめ町内の企業や金融機関、中部総合事務所、鳥取大学などが一堂に会し、地方創生に関する意見交換会が行われました。

本学からは、COC+中部地区担当の雛倉コーディネーターも参加され、COC+事業の取組みを説明し、連携・協力を呼びかけました。

5.鳥取大学振興協力会県外視察

【1月27日（水）、1月28日（木）：愛知県安城市アイシン・エィ・ダブリュほか】

鳥取大学振興協力会では産官学交流事業の一環として毎年県外先進地視察を行っており、今年は愛知県・岐阜県への視察を実施しました。羽馬会長（気高電機（株）代表取締役）をはじめ県内の産学金官関係者36人にご参加いただき、鳥取県進出企業であるマルサンアイ（株）、（株）イナテック、今井航空機器工業（株）、トヨタグループ関連の豊田合成（株）、アイシン・エィ・ダブリュ（株）を視察しました。

今回の視察は新たに設置した運営企画会議からの提案に基づいて企画したものであり、参加者の満足度の高い内容とすることができました。

6.平成28年度日野川の源流と流域を守る会総会・講演会

【2月19日（金）：鳥取県西部総合事務所講堂】

本会は、豊島良太学長を会長として、日野川流域の自然・環境を守り、次世代へ引き継ぐため、流域に暮らす住民が交流・連携しさまざまな活動を行っています。

総会では、平成28年度の活動方針として「子ども達の積極的な育成」「積極的な情報発信」「関連団体との連携」について拡充して取り組むことを確認しました。源流の碑までの新たな看板整備、缶バッジラリー、設立15周年記念植樹、子ども達の育成を強化する源流親子会の新設と多くの記念事業も予定しています。また、「オッサンショウオ（日南町）」「パイロットマン（江府町）」「パッキン☆マン（米子市水道局）」を “日野川源流大使”に任命しました。

総会後は農学部大住克博教授に「日野川と里山の生態系と管理」と題してご講演いただきました。

7.平成27年度明治大学・鳥取大学・鳥取県連携推進協議会

【2月22日（月）、：鳥取大学広報センタースペースC】

本協議会は、平成19年度に締結された「明治大学・鳥取大学・鳥取県との連携協力に関する協定書」に基づき毎年度実施しているものです。今年度は本学、明治大学間をTV会議で繋いで開催し、32人が出席しました。

会議では、主に平成27年度の事業実績及び平成28年度の事業計画について意見交換を行い、来年度も引き続き相互の連携を深め、各種事業を展開していくことについて申し合わせました。

8.サイエンス・アカデミー「メタンハイドレート～新たな海洋エネルギーの可能性～」開講

【2月27日（土）：鳥取県立図書館大研修室ほか】

2月からのサイエンス・アカデミーは、「メタンハイドレート　～新たな海洋エネルギーの可能性～」を主題に全3回に渡って開催しました。第1回目には工学研究科海老沼孝郎寄附講座教授、第2回目に明治大学松本良特任教授が登壇し、メタンハイドレートの特徴や利用方法、現在の調査状況等について解説しました。第3回目には工学研究科松原雄平教授から、海洋エネルギーの開発・利用状況と海洋開発技術者養成に向けた将来展望と課題についての講話があり、シリーズを締め括りました。米子会場等にもライブ中継を行い、全3回を通じて計328人にご参加いただきました。

9.鳥取大学天文ドーム一般公開及び宇宙開発体験ゲームワークショップ

【2月27日（土）、28日（日）、3月26日（土）、27（日）：鳥取大学天文ドームほか】

鳥取大学宇宙教育プロジェクトの主催で天文ドーム一般公開を実施しました。鳥取大学宇宙教育プロジェクトは宇宙を題材として様々な対象についての教育を行うことを目的とした研究・教育プロジェクトです。

今年度の天文ドーム一般公開は2月と3月にそれぞれ2日間ずつ開催し、延べ約80人にご参加いただきました。一般公開では天文ドームの設備の見学やそれらを使用した天体観測を行いました。また現在、宇宙教育プロジェクトでは宇宙開発を題材としたゲーム教材の開発を行っており、今回の天文ドーム一般公開では開発中のゲーム教材を使ったワークショップも開催しました。

10. 鳥取大学－日南町連携事業報告会及び鳥取大学－日南町連携 WG 会議

【2 月 27 日（土）：日南町文化センター多目的ホール】

平成 27 年度鳥取大学-日南町連携事業報告会を開催し、一般住民や関係者など約 90 人が出席しました。

報告会では、平成 27 年度の連携事業のうち、「地（知）的好奇心育成のための早期体験学習（COC 推進室天野圭子特命講師、地域学部 4 年杉田大輝さん）」「シミュレーションを用いた認知症教育プログラム（医学部山本美輪教授）」「日野川源流域における水質・生態系調査（地域学部寳來佐和子准教授、同 4 年森木翼さん）」の報告が行われました。

また、本学教員や日南町、鳥取県の職員 30 人で構成される「連携事業ワーキンググループ会議（平成 27 年度第 3 回）」を開催し、平成 27 年度の連携事業についての実績報告と平成 28 年度に取り組む予定の新規事業などについて協議しました。

11. 大山學講座　防災講演会

【2 月 27 日（土）：大山町生活想像館】

大山學講座で、大学院工学研究科の香川敬生教授が、「鳥取県西部地震などの地震災害に学ぶ身近な防災対策と地域づくり～その瞬間を生き残るために～」と題し講演しました。鳥取県内及び西日本の地震活動の特徴や、実際に地震が起きた時にどのような行動をするべきか、地震に備えた耐震補強や家具固定の重要性についてわかりやすく解説しました。聴講した住民は、自分の身は自分で守ることや、地域全体で安全に避難できるよう近所との繋がりを深めることの大切さを再認識するよい機会となりました。

12. 鳥取銀行による鳥大技術シーズ紹介冊子（vol.10）の発行　【3 月】

これまで本学と様々な連携を図っている鳥取銀行から銀行顧客向けの鳥大技術シーズ紹介が発行されました。このシーズ紹介冊子では銀行員によるインタビューや共同研究先企業のコメントなども記載して、分かりやすく作られています。

Vol.10 となる今回は、工学研究科の原豊准教授による「バタフライ風車実用化による小形風力発電の低コスト化を目指して」をテーマとした技術シーズが掲載されています。原准教授は小形風力発電の実用化に向けて、企業との連携により「バタフライ風車」の研究・開発に取り組んでおられ、バタフライ風車の実用化により、小形風力発電の低コスト化と普及を目指しています。バタフライ風車をはじめとしたこれまでの開発経緯、そして今後の展望についてのインタビュー記事となっています。本学 HP に掲載されていますので、是非一度ご覧ください。

13. 鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー「産学連携による課題解決型次世代医療機器の開発」

【3 月 8 日（火）：（株）テムザック技術研究所】

本学と鳥取銀行が平成 16 年に締結した「連携協力に関する協定」に基づき、地元企業のビジネスマッチングの促進及び県内産業の活性化を目的として、「鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー」を開催しています。

9 回目となった今回は、「産学連携による課題解決型次世代医療機器の開発～次世代ロボット技術と医療技術の融合による事業の展開～」をテーマに開催し、産学・地域連携推進機構米子地区地域連携部門の坂下誠司コーディネーターが「鳥取大学産学・地域連携推進機構の取組紹介」と題し、企業ニーズ・大学シーズのマッチングから製品化・事業化まで支援を行っていることや、これまでの事業成果について紹介しました。

また、医学部附属病院リハビリテーション部の松本浩実理学療法士から「医療福祉現場の課題とその解決に向けた取り組み」と題し、企業と医療機器の共同開発を行っている事例の紹介や、医療福祉の課題解決には企業のスキル・シーズとのマッチングが必要であるとの講話がありました。当日は、地元企業・行政機関の関係者など 37 人にご参加いただき、セミナーの後には（株）テムザック技術研究所における開発ロボットの見学会も催されました。

14. 南部町と鳥取大学との連携事業連絡会　～出張！鳥取大学～

【3 月 10 日（木）：鳥取大学大学会館小集会室 1 号室ほか】

南部町と本学との連携を推進するため、「南部町と鳥取大学との連携事業連絡会　～出張！鳥取大学～」を開催し、町職員 6 人が参加しました。派遣職員、大学職員、大学教員それぞれの立場から自治体と大学の連携について講演を行ったほか、農学部児玉基一朗教授の研究室や菌類きのこ遺伝資源研究センターを

訪問し大学への見識を深めました。大学と連携した課題解決を考えるワークショップではたくさんの事業提案があり、今後の連携推進に活かされることを期待します。

15.森林に依拠した多世代共生コミュニティの形成研究会　研究報告会

【3 月 10 日（木）：鳥取大学地域学部多目的会議室】

自伐型林業を軸に農業、福祉、ソーシャルビジネスなど様々な分野の研究者が横断的に連携する研究会「＜森林に依拠した＞持続可能な多世代共生コミュニティの形成」では定期的に研究会を開催しています。

今年度第 8 回となる今回は九州大学の佐藤宣子教授に「2000 年代以降における森林・林業政策の基調と山村への影響」と題して、本学農学部の大住克博教授に「林業を取り巻く『神話』などについて」と題してご講演いただきました。当日は本学研究者、鳥取県森林・林業振興局、鳥取県林業試験場、智頭町等 35 人が参加し鳥取県における林業について活発な意見交換が行われました。

16.地域自主組織「支え合いのまち御来屋」防災訓練

【3 月 13 日（日）：大山町保健福祉センターなわ】

毎年恒例の支え合いのまち御来屋防災訓練が実施され、御来屋地区住民約 130 人が参加しました。本学の参加は今回で 3 回目となり、大学院工学研究科の黒岩正光教授を中心に、COC 事業を活用して教員 3 人、学生 10 人が参加しました。今回は津波模型・地震伝播模型などの展示に加え、新聞紙を利用した紙食器・スリッパの作成、子どもから大人まで楽しみながら防災について学べるカードゲームを実施しました。

各種災害のメカニズムを説明したり、一緒にカードゲームをしたりと、学生にとって地域住民と触れ合うよい機会となり、プレゼンテーション研修にもなりました。参加された方からは、「多くの学生に来てもらい、防災訓練が賑やかだった」、「学生の説明はわかりやすくてよかった」などの感想が聞かれました。また、支え合いのまち御来屋の薩摩浩会長からは、「この防災教育は毎年好評で、ぜひ今後もお願いしたい。防災だけでなく、御来屋地区の活性化についても協力してもらいたい」との依頼がありました。

17.鳥取大学振興協力会第 3 回運営企画会議

【3 月 17 日（木）：鳥取大学医学部アレスコ棟第 2 会議室】

鳥取大学振興協力会では、会員企業のニーズに応えるための活動を活性化させることを目的とした「運営企画会議」を設置しており、このたび第 3 回会議を開催しました。会員企業の実務担当者 6 人に来学いただき、平成 28 年度の事業企画や企業向け人材育成講座の検討など、具体的なテーマについて意見交換を行いました。本会議は今後も定期的に開催し、会員企業にとって必要とされる会となるための検討を重ねていくこととしています。

18.地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+）キックオフシンポジウム及び連携自治体との調印式

【3 月 20 日（日）：鳥取大学共通教育棟 A20 講義室ほか】

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」キックオフシンポジウムを開催し、県内高等教育機関、自治体等の関係者や一般市民など約 180 人が参加しました。

本学の COC+事業「学生と社会の相互交流による人材育成・地元定着促進プログラム」は、本学が幹事校となり県内のすべての高等教育機関が参加する事業です。県及び県内全市町村並びに経済界、金融機関等と連携して学生の県内への就業意欲を促し、地方創生に向けて活躍できる人材の育成を目指します。

シンポジウムの開会挨拶では、豊島良太学長が、「大学全体として年度計画や数値目標を立て、それらの目標を遂行する覚悟です。」と強い決意を述べ、文部科学省 松尾泰樹大臣官房審議官からは事業への期待が述べられました。

基調講演では、石破茂地方創生・国家戦略特別区域担当大臣に大学等が地方創生に果たすべき役割について、また、隠岐國学習センター豊田庄吾センター長には、島根県隠岐郡海士町の公立塾で行われている先進的な人材育成の取り組みについてご講演いただき、参加者は終始熱心に聞き入っていました。

また、シンポジウム終了後に「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業協定」の締結式を行い、事業が本格的なスタートを切りました。

19. 鳥取大学振興協力会中部地区会員懇談会及び交流会

【3 月 28 日（月）：ホテル東伯イン】

鳥取大学振興協力会では産官学交流事業の一環として各地区会員との懇談会を行っており、このたび中部地区の会員 13 人に参加いただき、大学への提案や要望についての意見交換を行いました。会員からは学生と企業を連携させたプロジェクトに取り組むことで、地域の産業界に関心を持たせてはどうかといった提案をいただき、本学としても COC+事業の一環として会員企業と連携した事業について検討したい旨議論を行いました。

講演会では、農学部の田村文男教授が「オール鳥取で開発した EOD 技術　～画期的な園芸生産が可能に～」と題して、鳥取県園芸試験場と連携して取り組む花きの省エネ栽培技術について講義を行い、参加した 48 人は興味深く聞き入っていました。

20. 鳥取大学と智頭町の包括連携調印式及び記念講演会

【3 月 29 日（火）：智頭町観光協会会議室】

国指定重要文化財「石谷家住宅」にて、本学と智頭町の連携協定調印式を行いました。この協定は、本学の教育及び研究活動の円滑な推進と智頭町の林業、農業、産業振興、福祉・保健等の安全・安心で活力ある地域づくりについて相互に連携・協力を図ることを目的に締結しました。

寺谷誠一郎智頭町長は、「智頭町をあらゆる角度から見てもらい、研究者や学生に知恵を絞っていただいた意見を町政に反映させていきたい」と挨拶。豐島良太学長は「地方創生の先進的な町で学生たちが実践的な経験を通じ、本学の理念である『知と実践の融合』を実現したい」と意気込みを語りました。

なお、調印式の前には、智頭町でフィールドワークなどに取り組んでいる地域学部の家中茂准教授が、「森林に依拠した多世代共創コミュニティの形成」と題し、記念講演を行いました。

③知的財産管理運用に関する事業

1. 平成 27 年度さんさんコンソ外部評価委員会

【3 月 22 日（火）　開催：岡山大学本部棟 6 階　第 1 会議室】

平成 27 年度中国地域産学官連携コンソーシアム外部評価委員会が、6 名の外部評価委員を含む、14 機関 23 名の出席者にて開催いたしました。委員会では、平成 27 年度の事業報告、および平成 28 年度の事業計画の報告を行い、活発な意見交換が行なわれました。また、経済産業省宮本室長より、産学官連携をめぐる最近の動きについて説明がありました。今後の活動の参考となる貴重な意見が得られました。

2. 鳥取大学版特許集 2016 の発行【3 月】

大学特許の技術移転を目的として、主に単独特許に関して技術内容を掲載した特許集を発行いたしました。今回、新規出願した 12 件の発明を含む 54 件の特許技術を掲載しています。また技術分野をわかり易くするため、発明の内容に従って【医療・健康】、【食品・バイオ】、【農業・畜産】、【機械・加工】、【材料・化学】、【情報・制御】、【環境・エネルギー】の 7 分野に分類してまとめています。なお、掲載されている内容については、ＨＰでも検索可能です。

（http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/chizaiseeds/seeds2013/index.html）

お知らせ

平成 28 年 3 月をもって、研究推進部門田中俊行部門長が定年退職されました。また、米子地区地域連携部門栗政明弘副部門長（医学系研究科准教授・兼務教員）、及川信三コーディネーターが転出、地域貢献・生涯学習部門福山副部門長（工学研究科教授・兼務教員）が離任されました。皆様お疲れ様でした。今年度の構成員につきましては、ホームページ等でご確認ください。

発行日：平成 28年 4月 15日＜第 44号＞
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571
連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
E-mail：ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp